

## あとがき

「明倫館印」(篆書)のある図書で、この目録に収録しなかった図書に次のものがある。

一、増続会通韻府群玉 三十八卷等二十二部 (棲息堂文庫―山口大学附属図書館所蔵)

これらの図書はもともと棲息堂の図書であるが、明倫館が開講された享保四年当時萩に移されていて、その際押印されたものであろうといわれている。二十二部のうち漢籍は十六部で、これは「棲息堂文庫目録」(昭和六十一刊)の図書で享保四年当時の所蔵が確認できる漢籍百十三部に対して十パーセント余りの部数である。何故このように一部の図書にのみ明倫館の蔵書印が押されたか疑問の残るところである。

なお、棲息堂文庫の図書で明倫館の蔵書印のある図書は、前記のほかに大学衍義がある。これは明倫館の蔵書(丑三十八)が棲息堂に移されたものである。

一、造鑑伝習書 一冊 写本 (山口県立山口図書館所蔵)

一、気海観濫広義 卷一―七、十一―十五 十二冊 (萩市立図書館所蔵)

この二点は「博習堂印」があり、博習堂の蔵書と思われる。

一、本草綱目啓蒙 二六冊 (山口県立山口図書館所蔵)

「好生館印」があり、好生館の蔵書と思われる。

### 追記

本年二月、白水完児氏(山口大学農学部)の御教示により、次の図書が現存していることが確認された。

重刻国語

卷四―七 (吳) 韋昭解 (宋) 宋庠補音  
(明) 穆文熙編纂 千葉玄之 (芸閣) 再校 一冊 二七楨  
題簽 韋注国語 再校  
「越氏塾印」  
八十番 丙六番天